

■ 棚田保全の必要性 ■

棚田をとりまく状況は厳しい

たなだ 棚田地域は、山腹や丘陵地、非常に狭い谷底地などの厳しい地形条件の下で、生産基盤の整備の遅れから、営農上も多大な労力がかかります。さらに、この棚田を守ってきた人たちの高齢化や、農業の担い手の減少が進んでいます。

獣害が増えている

イノシシ、サル、シカなどによる農作物への被害が増えています。要因は、温暖化や過疎化、人工林の増加などと言われていますが、山地に隣接する棚田では、収穫間近の農作物が食べられたり、農地が荒らされたりしています。

耕作放棄地の増加

棚田をとりまく環境の厳しさや獣害の増加などから、田んぼや畑で作物をつくることを止めてしまい、耕作放棄地が増えています。

耕作放棄の拡大が招く悪影響

耕作放棄が拡大すると、棚田の有する国土・環境保全機能が失われ、降雨によって洪水や土砂流出、法面崩壊などが生じやすくなり、周辺及び下流域に悪影響を及ぼすことが強く心配されます。



棚田の保全活動

棚田地域にある農地等を保全・管理し、利活用していくことは、洪水防止・水資源かん養・国土・環境保全など様々な公益的機能の維持につながります。